

越境の野球史

一日米スポーツ交流とハワイ日系二世

森仁志（関西大学人間健康学部）

要旨

近年メディアで注目されるワールド・ベースボール・クラシックなどの短期決戦型の国際試合では、「負けられない戦い」、「日本人のスタイル」などの言説を通じて、敵対的な自他意識が強調される傾向にある。しかし通時的な視点で見れば、スポーツは「敵（彼ら）」のものとされる技術や人を「味方（われわれ）」に取り込む行為によって、逆接的ではあるが「敵対を通じたつながり」を育んできたといえる。

本報告では、第二次世界大戦の前後に日本のプロ野球界で活躍した「ハワイ（布哇）朝日」出身の日系二世選手たちに注目することで、太平洋を跨いだ野球交流の歴史を、「日米」ではなく「日布米」野球交流史として捉え直す。具体的には、拙著『越境の野球史』の内容の一部を要約するかたちで、二世選手たちの国境を越えたグローバルな活動に焦点を当て、文化混淆の視点からプレースタイルや技術によって日米を二分法的に区分することの妥当性について再考する。